

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第160集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡XVI

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡 第16次調査

2008.12

有限会社 ジャンリッツ
佐久市教育委員会

西一本柳遺跡Ⅷの発掘調査について

西一本柳遺跡は佐久市岩村田に所在します。遺跡は湯川河岸段丘上に位置し、「弥生のビーナス」とも呼ばれる優美な表情をした人面付土器が出土した遺跡として有名です。近年、遺跡の中央を国道141号バイパスが建設され急速に変貌をとげている場所です。今回の発掘調査は西一本柳遺跡の中で16番目に調査された遺跡で、狭い範囲でしたが2つの重要な発見がありました。

まず、第1の発見は「黒曜石が貯蔵された弥生時代の壺」が出土したことです。弥生時代中期のこのような事例は発表されているものとして上伊那郡箕輪町の箕輪遺跡と佐久市根々井の根々井芝宮遺跡と伴に県下で3例目です。また、今回出土した壺の中や周辺から出土した黒曜石は51点あり、その中には黒曜石の原石を打欠いて石器づくりの行程が復元できる資料も確認されました。このように壺に入った黒曜石どうしが接合できたのは今回が初めての事です。この事は当時の人々が黒曜石を使って石器製作を行った過程を示す具体的な資料であり、非常に貴重なものです。



「黒曜石を貯蔵した弥生の壺」



川原町口式土器推定復元図 (約1:4)

次に弥生時代中期に東北地方南部で使われていた「川原町口式土器」と呼ばれる土器が弥生時代の住居跡から出土したことです。このような土器の発見は佐久地域で初めての事です。この土器が東北地方南部で作られたものか、或いは佐久の人がまねて作ったものかは土器に使われている粘土の科学分析をおこなってみたいと解りませんが、弥生時代の佐久と東北の交流を示す貴重な資料です。現代の私たちが予想できないようなダイナミックな人々の交流が当時あったのかもしれませんが。



「東北地方南部の土器」

例 言

1. 本書は、有限会社 ジャンリッツが計画するウェディング会場建設工事に伴う西一本柳遺跡Ⅺの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 有限会社 ジャンリッツ
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 西一本柳遺跡Ⅺ (I N PⅪⅪ) 佐久市岩村田2338-4
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成20年4月2日～平成21年3月25日
調査面積 385㎡
6. 本書の編集・執筆は富沢が行った。
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

発掘調査にあたり笹沢幸司氏・市川 覚氏には格別なご理解とご協力を賜った。また本報告書作成にあたり、馬場伸一郎氏・石川日出志氏にご指導を頂いた。記して感謝いたします。

凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址 (H)・掘立柱建物址 (F)・土坑 (D)・溝状遺構 (M) である。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。
竪穴住居址・掘立柱建物址 1/80 カマド 1/40 土坑 1/80 土器 1/4 石器 1/4・1/3
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
5. スクリーントーン表示は以下の通りである。



目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過 1
2. 調査体制 1
3. 遺構と遺物の詳細 1
4. 基本層序 2

第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 竪穴住居址 3
2. 掘立柱建物址 24
3. 土 坑 25
4. 溝状遺構 25

写真図版 報告書抄録



第1図 周辺遺跡位置図(ローマ数字は西一本柳遺跡の地点名)

第I章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市岩村田地籍の湯川右岸台地上に所在する。遺跡群の時代は弥生時代中期から中世に及ぶ集落遺跡で、佐久市内でも有数の大遺跡群である。

西一本柳遺跡は遺跡の中央を近年に国道141号バイパスが建設され、道路沿線の開発が非常に活発な地域である。それらの要因により西一本柳遺跡の調査事例も増え、現在までに「人面付き土器」や「変形銅戈形石製品」等の貴重な発見が相次いでいる。

今回、遺跡内において有限会社ジャンリッツによりウェディング会場建設の計画がなされたため、佐久市教育委員会は文化財保護法第93条の届けを受け、試掘調査を行った。結果、開発対象地に遺構が発見され保護協議を行い遺跡破壊の恐れがある部分については記録保存を目的とする発掘調査を行う事となった。今回の調査は西一本柳遺跡内において第16次の発掘調査となる。

2. 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	
	教育長	木内 清
事務局	社会教育部長	内藤孝徳
	社会教育部次長	柳澤本樹
	文化財課長	森角吉晴
	文化財調査係長	三石宗一
	文化財調査係	林 幸彦
		須藤隆司
		羽毛田卓也
		富沢一明
		出澤 力

並木節子
小林真寿
神津 格
上原 学



第2図 遺跡位置図 (1:50000)

調査体制

調査担当者	富沢一明	森泉かよ子			
調査員	阿部和人	碓氷知子	菊池喜重	柏木義雄	小林百合子
	依田好行	市川明子	小林妙子	橋詰勝子	田中ひさ子
	井出孝子	細谷秀子	木田慶二	里見理生	狩野小百合
	市川光吉	吉田信行	清水律子	橋詰信子	浅沼ノブ江
	堺 益子	林まゆみ			林 美智子

3. 遺構と遺物の詳細

遺 構	竪穴住居址	18軒
	弥生中期12・弥生後期1	
	古墳後期4・平安1	
	土 坑	8基
	掘立柱建物址	6棟
	溝 状 遺 構	3本
	ピ ッ ト 群	89個
遺 物	弥生土器	
	(栗林式・箱清水式・川原町口式)	
	土師器・須恵器・石器・鉄製品	

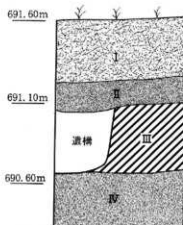


調査区を南より望む

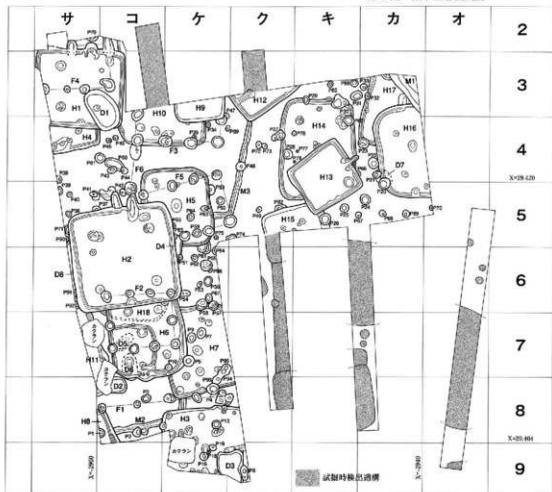
4. 基本層序

今回の調査対象地は湯川への河岸段丘上に位置し、基本層序は4層に分かれる。遺構確認面はⅢ層の浅間山を起源とする火山噴出物の堆積土である浅間軽石流で、黄色土中に黒色土の落ち込みとして確認できた。遺構を掘り下げると下部はいわゆる「湯川層」と呼ばれる砂層になり、遺構の壁は非常に崩れやすかった。

- I. 褐灰色土層(10YR6/1) 耕作土。しまり・粘性弱い。
- II. 暗褐色土層(10YR3/3) しまり・粘性弱い。ローム粒子微量含む。
- III. 黄褐色土層(10YR5/6) 浅間第1軽石流。(P1)
- IV. 灰白色土層(10YR7/1) 砂層。

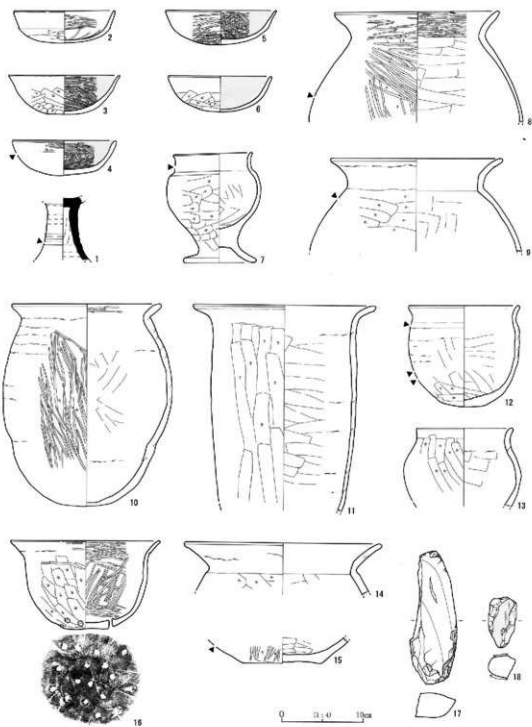


第3図 標準土層模式図

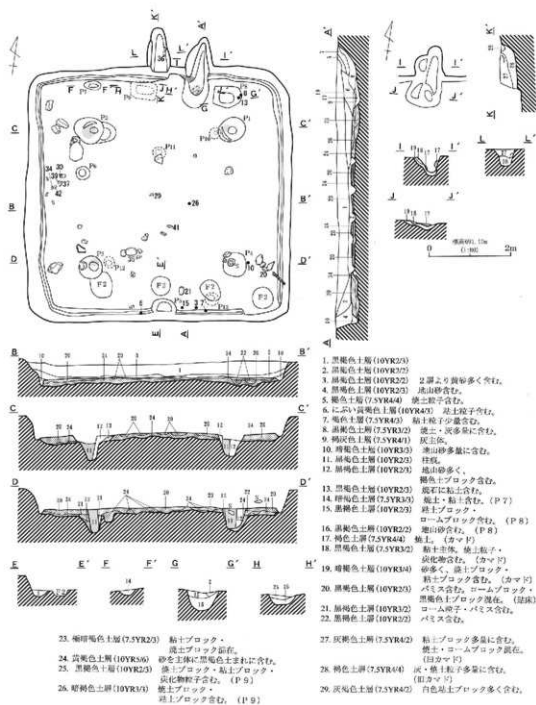


第4図 西一本柳道跡Ⅱ及び試掘調査全体図

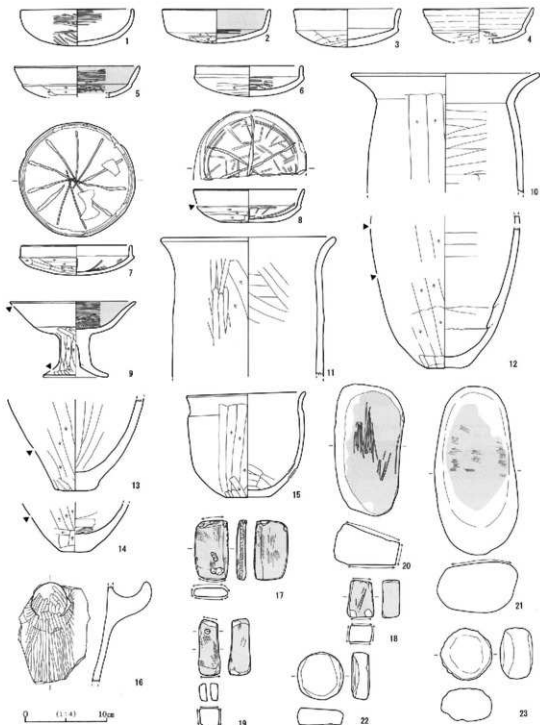
(1:200)



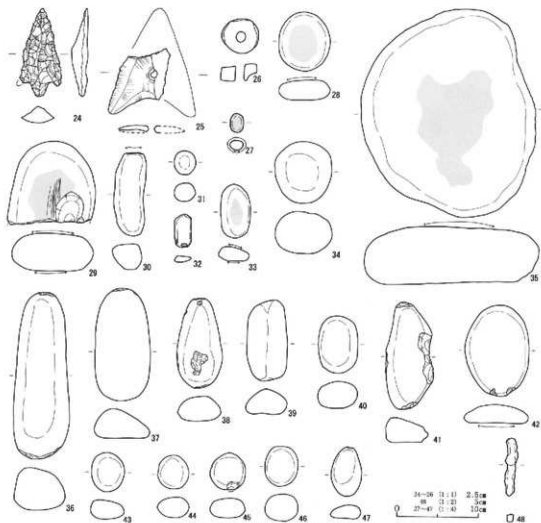
第6图 H1号住居址出土遗物实测图



第7図 II 2号住居地表面図



第8图 H2号住居址出土遗物实测图①

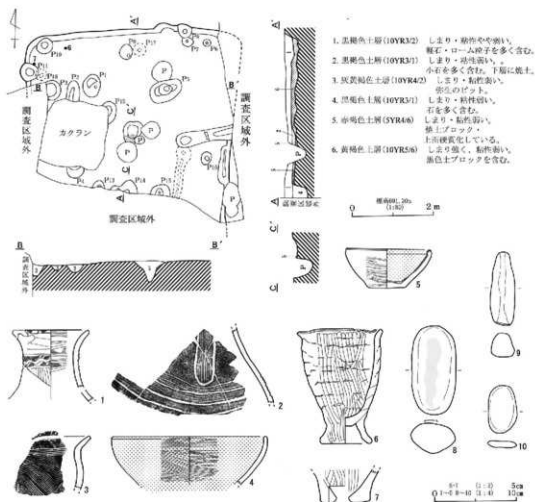


第9図 H2号住居址出土遺物実測図②

(2) H2号住居址

本住居址は調査区中央西よりに位置する。覆土は自然堆積で貼床は全体に軟質であった。主柱穴は4本で、壁直下には壁溝が巡っている。カマドは北壁中央と北壁東よりの2箇所で見出され、北壁東側のカマドが最終的に使用されていたと考えられる。カマド煙道部は外に飛び出すタイプである。両袖は残存していなかったが、火床部は良く焼けていた。カマド東脇に貯蔵穴と考えられる掘り込みが確認され、落ち込んだ状態で土器類が出土した。東壁には構築材と考えられる炭化材が、南壁下にはまとめて遺物が出土した。また、本址床面には写真で示したように東西方向に6本の細い溝が見出された。覆土上層からの切り込みもないことから、本址の床構築時の何らかの施設の可能性がある。

出土遺物は1～8が土器器環である。1は碗状のタイプで、5世紀代に承襲を求められるものである。2～4は須恵器環蓋模倣のタイプ、6と7は須恵器環身模倣タイプの環である。7の環は内面に放射状の暗文が施されている。9は土師器高環で内面黒色処理されている。10～15は土師器甕で、15の小型甕を除くいずれも長胴甕のタイプである。16は取って付の甕破片と考えられる。17～21は砾石である。17は側面に鋸歯状の磨り面が存在する。22と23は軽石製の石製品であり円形でいずれも平



第10図 H3号住居址及び出土遺物実測図

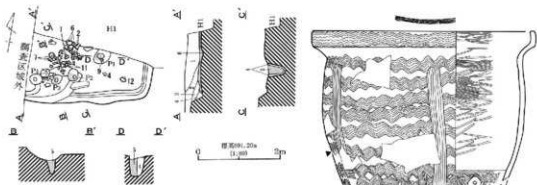
垣面を表出しているが用途は不明である。24は黒曜石の有茎石鎌、25は穿孔のある磨製石鎌、26は白玉である。27~47はそれぞれすり痕や両端部に敲き痕がある磨石や敲石である。これらの出土遺物より本址は古墳時代後期6世紀代と考えられる。

(3) H3号住居址

本址は調査区南端に位置し南側半分が調査区域外となる。また、住居址中程に後世のカクランがある。住居址が中央部分で検出された。床は炉の周辺が硬質で、壁際に向かうにしたがって軟質であった。主柱穴はP1・P5・P13・P15、P9は持ち柱と考えられる。

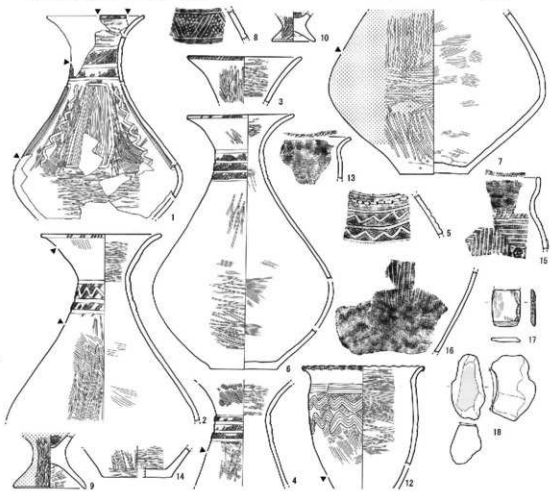
出土遺物は覆土中からが多かった。1と2は壺であり、1は頸部に縄文施文の後に平行と山形の沈線が施される。2は壺胴部の破片で、垂下文と横線文が施される。3は甕であり簡描の横線文と綾杉文が施される。4と5は大小の鉢である。6と7はミニチュア製品で、6は台付甕、7は甕の底部を模倣したと考えられる。7は底部に焼成後の穿孔が施されている。8~9は磨石と敲石である。

本址はこれらの出土遺物から弥生時代中期後半と考えられる。

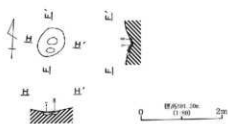
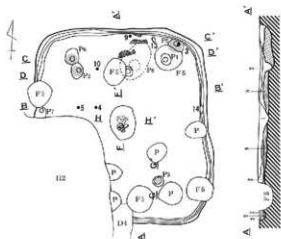


1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミスを多量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 1層より黒色強い。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子を多量に含む。
4. 褐色土層 (10YR4/6) 砂主体。
5. 暗褐色土層 (10YR3/4) 粒状。
6. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。(原色)

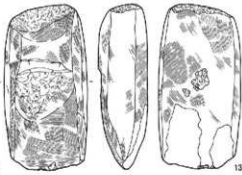
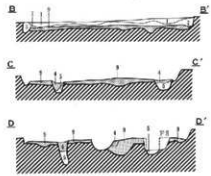
11	11 : 0	15cm
17	11 : 2	7.5cm
1-16	11 : 2	10cm



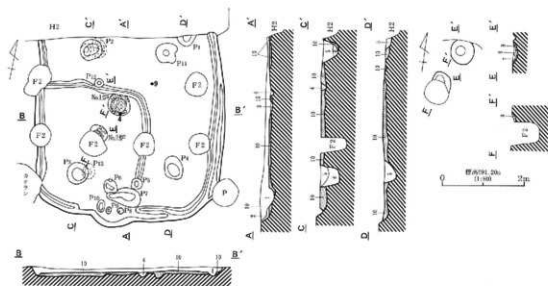
第11図 H4号住居址及び出土遺物実測図



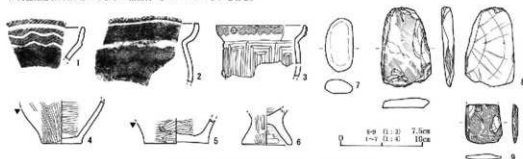
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) パミヌ・炭化物粒子を多量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/1) 炭化材を多量に含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/1) ローム粒子・パミヌを多く含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。
5. 黒色土層 (10YR4/0) 砂主体。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子を多く含む。
7. 赤色土層 (10R5/0)
8. 赤色土層 (10YR4/0) 粘土を少量含む。
9. 褐色土層 (10YR4/0) ローム主体に黒褐色土ブロックをまじりに含む。床面は溝々掘れている。



第12図 H5号住居址及び出土遺物実測図



1. 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり・粘性弱い。ローム団子を多く含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) しまり・粘性やや有り。ロームブロックを含む。
3. 黒灰色土層 (10YR3/7) しまり・粘性弱い。炭土粒子を含む。
4. 暗灰色土層 (10YR4/7) しまり・粘性弱い。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。
6. 褐色土層 (10YR4/6) しまり・粘性弱い。ロームブロックを含む。
7. 黄褐色土層 (10YR5/8) しまり・粘性弱い。ロームブロックの張り崩れ。
8. 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり・粘性弱い。炭化物・炭土を多く含む。
9. 暗赤褐色土層 (5YR3/6) 炭土層。しまり・粘性弱い。さらさらした層。
10. 褐色土層 (10YR4/4) しまり・粘性やや有り。ローム土と黒褐色土の混合土。一部砂礫化している。



第13図 H6号住居址及び出土遺物実測図

(4) H4号住居址

本址は調査区北側に位置し、北側がH1号住居址に削り取られ、また西側が調査区域外となる。よって住居址の南東コーナー部のみでの検出であった。床は硬質で支柱穴と考えられるP1が検出された。

出土遺物は非常に多く、土器類は床面上に散乱する状態で出土した。また、南壁際には磨り痕がある礎が検出された。出土土器は壺類が多く、1～8が壺である。1は胴部上半に沈線の山形文と長方形の区画文の中に縦位の櫛描文を施す。また外面全体に赤彩が見られるが発色が不完全である。9と10は小型の高坏脚部である。いずれも外面・内面に赤彩が施されている。11～16は甕であり、14, 15, 16は同一個体の可能性がある。17は片刃の磨製石斧、18は軽石製の砥石である。これらの出土遺物より本址は弥生時代中期後半に位置づけられると考える。

(5) H5号住居址

本址は調査区のほぼ中央に位置する。H2号住居址に南西コーナー部を削平されている。住居址の形態は隅丸方形で、壁直下には壁溝が巡る。床は硬質であった。住居址中央には炉が検出された。炉は枕石的な使用が考えられる礎が検出され、中央は良く焼けていた。主柱穴と考えられるピットが3箇所確認された。また、本址は床面上から多量の炭化物和焼土が検出されいわゆる焼失住居的な様相であった。

本址からの出土遺物は比較的少なく、土器類の完形品も少なかった。1～3は壺、4～7は甕の破片と考えられる。7は脚部が短い台付甕となるようである。5は小型の甕でありミニチュア的な様相を示す。9は脚部が欠損しているが高坏と考えられる。10は小型壺から転用されたミニチュアか、当初から口縁部を現状のように作ったものか判然としないが完形である。11.12は同一個体の甕と考えられる。13は蛤刃形の磨製石斧である。一部に敲打の痕跡を残す。また刃部は一部欠損している。14は磨石で一部分であるが非常に使い込まれている。15は黒曜石の刃器であるが本址に伴うのかは不明である。本址はこれらの出土遺物から弥生時代中期後半に位置づけられると考える。

(6) H6号住居址

本址は調査区中央部に位置し、H2号住居址と重複関係にあり本址の方が古い。残存状態は北側部分をH2号住居址に削平されている。形態は隅丸方形と考えられる。床面は全体に硬質で、特に炉周辺部が硬かった。壁際には壁溝が巡るが、住居址南西側に住居址規模よりも一回り小さい壁溝が巡る。また炉も住居址中央部に1箇所と、小さい範囲の壁溝に囲まれた中央にも炉址が検出された。主柱穴は4箇所確認され、また南壁中央部には入り口施設のためと考えられるピットが検出された。本址はこれらの形態から住居の拡張が考えられるが拡張前と拡張後の規模があまりにも異なることから拡張以外の可能性も視野に検討する必要があるだろう。

本址からの出土遺物は比較的少なく、覆土中からの出土がほとんどであった。1は壺の口縁部で口唇部と口縁部に縄文施文の後、山形文の沈線を施す。2～5は甕の破片で2は波状文、3はコの字文を施す。6は小型の台付甕の破片である。8と9は磨製石斧であり、8は木製品と考えられる。これらの遺物より本址は弥生時代中期後半に位置づけられる。

(7) H7号住居址

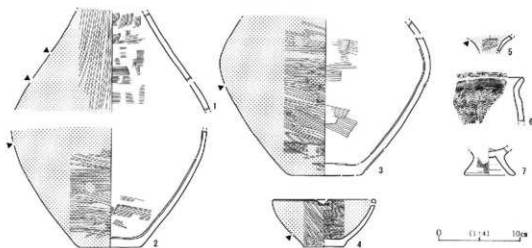
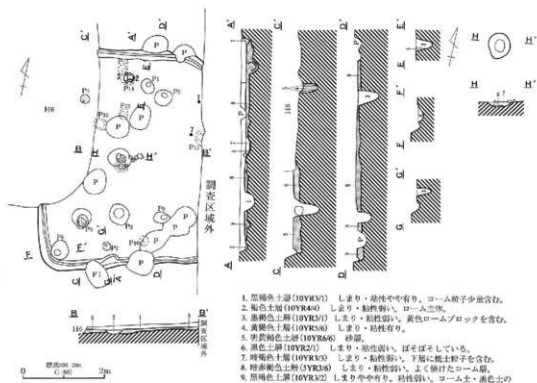
本址は調査区中央部に位置し、H6号住居址と重複関係にあり本址の方が古い。形態は方形を呈する。壁際には壁溝が巡る。炉は中央やや西よりで検出された。枕石と考えられる礎が散在し、底面は良く焼けていた。床は中央部は硬質であったが、壁際は軟質化していた。主柱穴は4箇所確認された。また、掘り方検出時に住居址北壁より中央でピットに埋め込む状態で、図示した3の壺胴部下半が出土した。

本址からの出土遺物は少なく、7点を図示した。1～3は壺の胴部上半と下半で、3は先に述べたように埋設壺のような状態で出土した。4は鉢で口縁部に焼成前の孔が2箇所確認できる。5はミニチュアの赤彩壺口縁部と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。6は甕の口縁部で胴部は柳播波状文を施す。7は小型の台付甕脚部である。本址はこれらの遺物より弥生時代中期後半に位置づけられる。

(8) H8号住居址

本址は調査区の南西端に位置し、住居址の北東コーナー部しか検出されていない。壁際には壁溝が巡り、床は軟質であった。床下に掘り方があり、壁溝が巡ることから住居址と判断した。

本址からの出土遺物は非常に少なく、赤彩された鉢を1点図示したに止まった。なお本址は平成7、8年度に調査が行われた西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ地点のH201号住居址と同一遺構の可能性があり、H201時期不明住居址として報告されている。



第14図 H7号住居址及び出土遺物実測図

(9) H9号住居址

本址は調査区北際に位置する。住居址北側がほとんど調査区域外となる。形態は方形と考えられる。覆土は自然堆積で、貼床が存在した。また掘り方時にピットが2箇所検出された。出土遺物は4点を図示した。1は須恵器環、2と3は須恵器甕底部付近の破片である。4は鉄製品で釘と考えられる。

H8

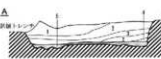
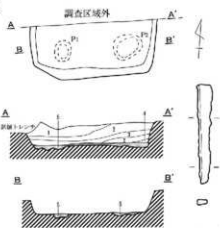


1. 黒色土層 (10YR2/1) しまり・粘性有り。軽石粒を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) しまり・粘性弱い。黄色ローム粒子を多く含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) しまり・粘性やや有り。
4. 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり強く、粘性有り。かさを含まず、さらさらしている。
5. 黄褐色土層 (10YR5/6) しまり・粘性やや有り。黒色土ブロックを含む。

標準0.1. 0m
0 100 200

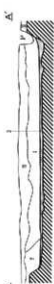
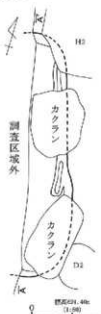


H9



標準0.1. 0m
0 100 200

H11



09-4 H11-2 (3) 3 3cm
H11-4 (3) 3 7.5cm
0 100 150 1-3 (3) 0 100cm

1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子・砂を多量に含む。
2. 黒色土層 (10YR4/4) ローム粒子・軽石粒を多量に含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)
4. 黒色土層 (10YR2/1) 3層に収まるローム粒子少ない。
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 60質。上面ややしまり有り。(湿潤)



- II. 暗褐色土層 (10YR3/3) しまり・粘性弱い。ローム粒子微量含む。
1. 暗褐色土層 (10YR3/3) しまり・粘性やや有り。
 2. 黒色土層 (10YR4/4) しまり・粘性弱い。ローム粒子多量に含む。
 3. 黄褐色土層 (10YR5/6) しまり・粘性やや有り。上面やや硬質化している。(湿潤)



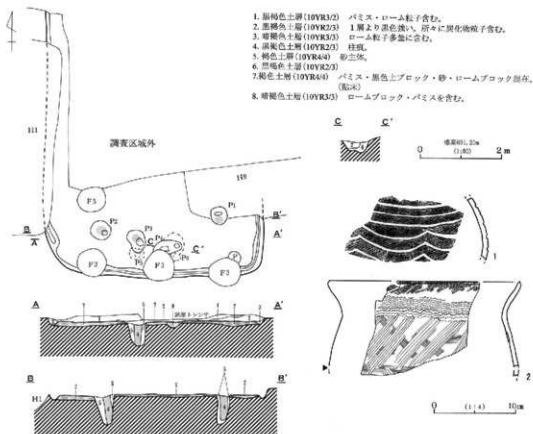
第15図 H 8. 9. 11 住居址及び出土遺物実測図

(10) H10号住居址

本址は調査区の北端に位置する。H1住居址、H9号住居址、F1号掘立柱建物址と重複関係にある本址の方が古い。床面は非常に硬質化しており、壁際まで硬かった。床は均等に貼られていた。P1とP2は主柱穴、P3とP4は入り口施設の穴と考えられる。壁溝は南西コーナー部を除き巡っていた。

本址からの出土遺物は非常に少なく、2点を図示した。1は壺の胴部破片で地文に縄文施文し、上部にヘラ描平行沈線文とヘラ描弧文を施す。2は甕の口縁部破片で、口縁部に縄文、頸部に縄波状文、胴部に縄斜走文が横位羽状に施されている。

本址はこれらの遺物より弥生時代中期後半に位置づけられる。



第16図 H10号住居址及び出土遺物実測図

(11) H11号住居址

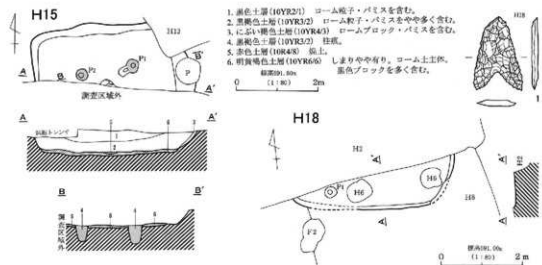
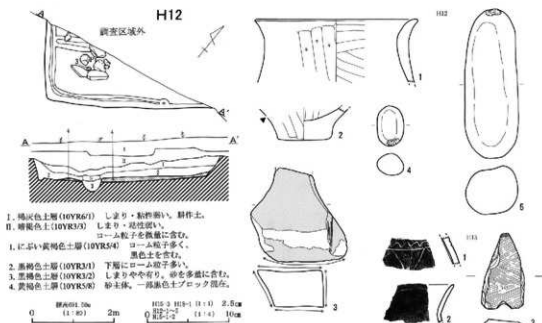
本址は調査区の南端に位置し、ほとんどが調査区域外となるため住居址の東壁のみの検出に止まった。H2号住居址と重複関係にあり、本址の方が古い。形態は方形と考えられ、一部壁溝が確認された。床は軟質で、検出部分全体に貼り床が施されていた。

本址からの出土遺物は少なく4点を図示した。1は弥生壺の口縁部破片で、口唇部と口縁部上部に縄文が施文されている。2は小型高坏の脚部である。3は敲石、4は一部磨部が残り、石包丁の再加工品の可能性がある。なお、本址は平成7、8年度に調査が行われた西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ地点のH120号住居址と同一遺構の可能性があり、時期は弥生中期後半として報告されている。

(12) H12号住居址

本址は調査区の北端に位置する。住居址の南西コーナー一部が検出された。形態は方形と考えられ、周辺には壁溝が巡る。P1は主柱穴と考えられ、壁よりピットまで間仕切り溝が確認された。また、ピット周辺には大型の河原石を含む礫群が検出された。本址からの出土遺物は少なく、土師器甕や砥石などがあつた。1と2は土師器甕であり、2の底部は肥厚したタイプのものである。3は砥石で砥面が湾曲するまでよく使い込まれている。4と5は敲石である。

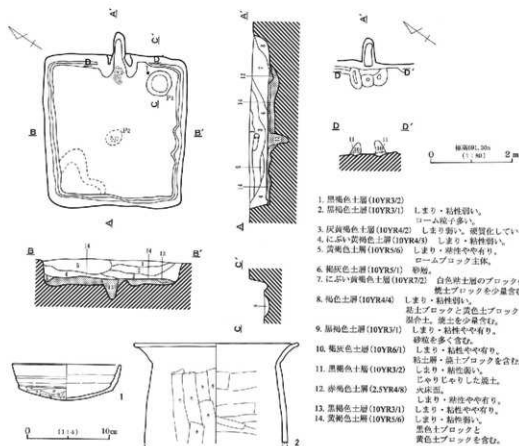
本址は出土遺物が少なく不確実であるが古墳時代後期と考えられる。



第17図 H12. 15. 18号住居址及び出土遺物実測図

(13) H13号住居址

本址は調査区の中央東よりに位置する。形態は方形で、残存状況は良好である。東壁にカマドを構築している。カマドは袖部を造りだし煙道部が住居址壁より飛び出すタイプのものである。またカマド脇に貯蔵穴と考えられる掘り込みが検出された。壁溝は全周する。床は全体に硬質で、特にカマド前と住居址中央は硬質化していた。ピットは住居址中央から掘り方検出時に1箇所検出された。覆土は8層に分かれるが、5層を中心に投げ込まれたような堆積状態で、人為的な埋め戻しの可能性がある。出土遺物は少なく2点を図示した。1は土師器でカマド脇から出土した。いわゆる有段口縁杯と



第18図 H13号住居址及び出土遺物実測図

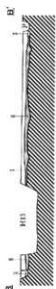
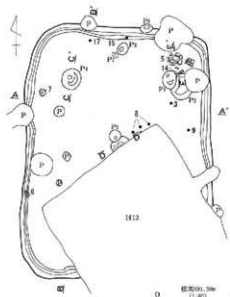
呼ばれるタイプのものである。2は土師器甕で胴部上半のみの出土であった。

本址はこれらの出土遺物より古墳時代後期、6世紀後半から7世紀前半に位置づけられる。

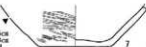
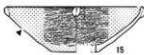
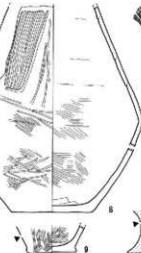
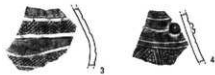
(14) H14号住居址

本址は調査区中央東より位置する。南東コーナー部がH13号住居址により削平されている。その他の部分の残存状態は良好である。形態は南北方向に長い隅丸方形であり、住居址中央部に炬が検出された。壁際には壁溝が巡り、床は比較的軟質であった。また、本址からは北東コーナー付近の床面より黒曜石を貯蔵したと考えられる壺胴部下半が潰れた状態で出土した。

本址からの出土遺物は比較的多く床面からの出土が多い。1と2は壺口縁部の破片で、1は口唇部に刻みを持つ突起がある。3と4は壺の胴部破片で、3は沈線文間に縄文を施文、4は沈線文間に刺突文と円形の貼付文を行う。5は黒曜石の入った壺胴部下半である。甕描の三角文の後縄文を施文している。また胴部最大径の部分に貼付文が4箇所貼り付けている。この壺は通常ミガキが施されているが、胴部下半にはハケ目の残るナデが施されているのみである。6は小型の壺で胴部上半に円形の刻線があり、一箇所刺突を行っている。7～9は壺である。10～13は甕であり、11～13はコの字文を施す。14と15は鉢でいずれも赤彩を施す。16と17はミニチュア製品と考えられ、16は高杯、17はコップ形の土器である。18～22は黒曜石の周辺から出土した石器類で、21は敲き痕があり、22は砥面に刻

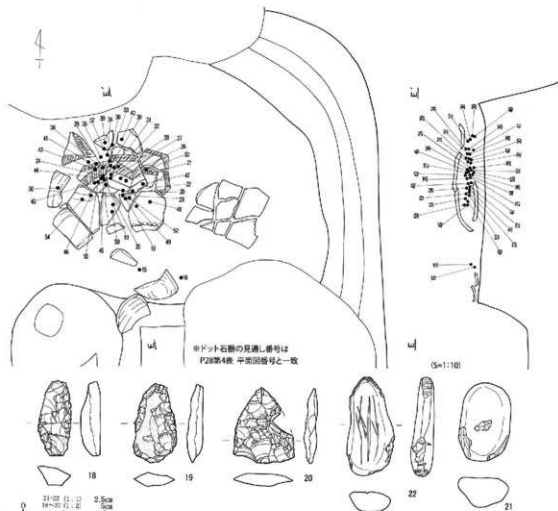


1. 黒褐色土層(10YR3/2) しまり・粘性弱い。
2. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) しまり・粘性弱い、
小石を多く含む。
3. 黄褐色土層(10YR5/6) しまり・粘性弱い、ローム土主体。
4. 黄褐色土層(10YR3/1) しまり・粘性弱い。
5. 黄褐色土層(10YR5/6) しまり・粘性やや有り。
6. 黒褐色土層(10YR3/1) しまり・粘性やや有り、
炭化物を含む。
7. 黒色土層(10YR2/1) しまり・粘性やや弱い、
泥土砂子を含む、炭化物を多く含む。
8. 褐色土層(10YR4/4) しまりやや有り、粘性弱い、
黒色土とロームブロックの混合土。



0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
10cm
10cm

第19図 H14号住居址及び出土遺物実測図



第20図 H14号住居址黒曜石出土状況及び出土遺物実測図

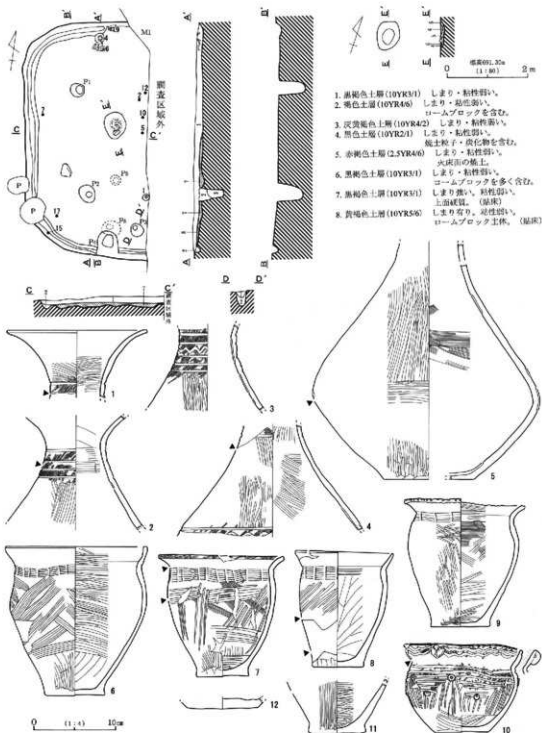
線のような跡があり、また先端部は鋸歯状の磨痕がある。

これらの出土遺物より本址は弥生時代中期後半に位置づけられる。

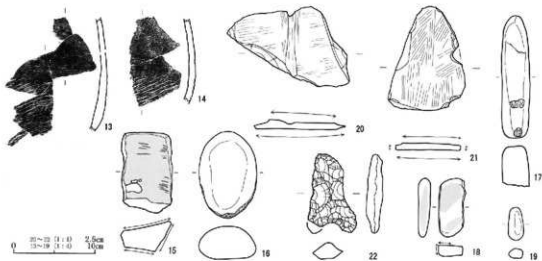
(15) H15号住居址

本址は調査区の中央南寄りに位置する。南側が調査区域となるが、試掘結果より南北方向に長い方形の住居址と考えられる。検出されたピットは主柱穴と考えられ、ピット間に炉石を伴った炉が検出された。

本址からの出土遺物は非常に少なく、3点を図示した。1は壺の胴部破片であり、表面には赤彩が確認できる。艶描による沈線で山形文を描き、区画内に直線を斜走に表している。その上部に横方向の沈線で区画し細かな波状文を施している。2は甕の口縁部で、口縁部に波状文、頸部に櫛描籬状文を施す。3は磨製石鏃の断片と考えられ、穿孔が確認できる。本址はこれらの出土遺物から不確実ではあるが弥生時代後期に位置づけられると考える。



第21図 H16号住居址及び出土遺物実測図



第22図 H16号住居址出土遺物実測図

(16) H16号住居址

本址は調査区東端で検出された。東半分が調査区域外となる。形態は南北方向に長軸を持つ隅丸方形と考えられる。住居址中央に炉が検出された。炉は中央部が良く焼けており、枕石と考えられる礎が1点検出された。壁際には壁溝が巡る。床は全体に硬質で、特に入り口付近が非常に硬質化していた。遺物は北壁際と炉周辺からまとまって出土した。

本址からの出土遺物は多く、特に床面からの出土が多かった。1～5は壺の口縁部や頸部・胴部であり、全容を示すものはなかった。これに対して6～11は甕であり、口縁部から底部まで残存するものが多い。6～9はいずれも櫛描文がそれぞれ施されるが、7などは施文が非常にあらい。10はやや器高が低い甕描の字施文の甕で、口縁部内面のみ赤彩が施されている。13と14はいわゆる「川原町口式」とよばれ東北部に広がる土器であり、2片は同一個体と考えられる。細い2本一単位の沈線と胴部下半には付加糸縄文?が施文されている。また沈線文で区画された空間は、一つ間隔で弱いミガキが施されている。今回の調査範囲からは同一個体と考えられる破片が合計6片出土している。20は磨製石器の未完成品で、切断の為の溝が観察できる。21は磨製石鎌の未製品か。15は砥石である。

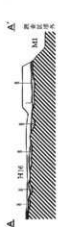
本址はこれらの出土遺物より弥生時代中期後半に位置づけられる。

(17) H17号住居址

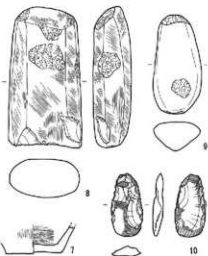
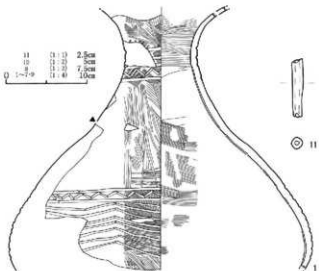
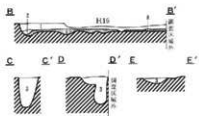
本址は調査区東端で検出された。重複遺構はM1号溝状遺構とH16号住居址で、いずれも本址の方が古い。形態は方形でコーナー部はやや鋭角に曲がる。西壁と南壁の一部に壁溝が巡る。炉は住居址の中央で検出された。南北方向に長い不整形で、壺胴部下半を利用した埋設土器を伴う。火床部と考えられる部分は良く焼けていた。ピットは14箇所確認されたが、主柱穴と考えられるP1, 2, 8にはいずれも掘り方検出時に脇に添うようにピットが確認され、主柱穴を移動した可能性がある。

本址からの出土遺物は比較的多かった。1は壺であり胴部下半を欠損する。頸部と胴部中央に櫛描沈線と縄文がそれぞれ施文されている。2は壺の頸部である。3と4は壺の底部付近で同一個体と考えられる。炉の埋設土器として使用されていた。5は無紋の甕で、6と7は甕か壺の底部である。8は磨製の蛤刃型石斧と考えられるが刃部を欠損している。9は敲石、10は小型の磨製石斧の未製品である。11は土製の管玉と考えられるが類例がなく確認を得ない。

これらの出土遺物より本址は弥生時代中期後半と考えられる。



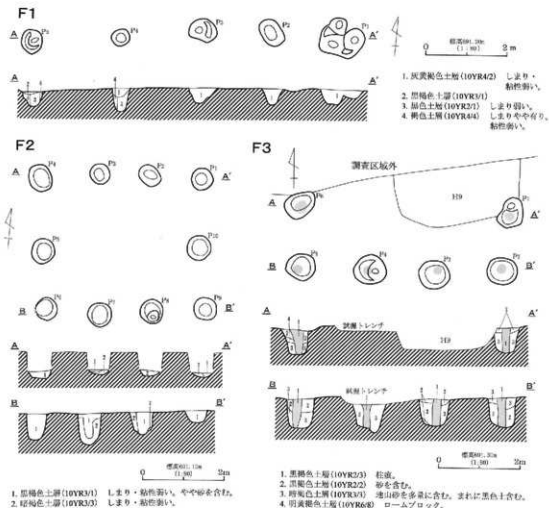
1. 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり・粘性弱い。砂を少量含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) しまり・粘性弱い。ローム粒子を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/1) しまり・粘性弱い。ローム粒子を少量含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/1) しまり・粘性弱い。小石を多く含む。
5. 黒褐色土層 (10YR3/2) しまり・粘性弱い。炭化物を多く含む。
6. 黒褐色土層 (10YR3/3) しまり・粘性やや有り。粘土を含む。
7. 赤褐色土層 (2.5YR4/6) しまり・粘性強い。砂礫がよく混んでいる。
8. 黄褐色土層 (10YR5/6) しまり有り。粘性弱い。砂とロームブロックの混合土。入口部分が特に硬質。



第23図 H17号住居址及び出土遺物実測図

(18) H18号住居址

本址は調査区南よりに位置する。重複遺構はH2号住居址とH6号住居址でいずれの遺構よりも本址の方が古い。住居址のほとんどがH6号住居址と重なる為、壁と床の一部が確認されたのみである。本址からの出土遺物は少なく、図示できたのは無茎の石織1点のみである。壁際覆土中から出土した。本址は出土遺物も少なく帰属時期も不明である。

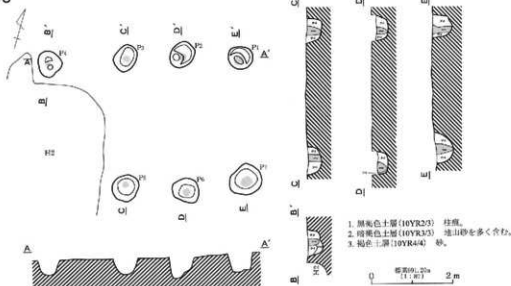


第24図 掘立柱建物址及び出土遺物実測図

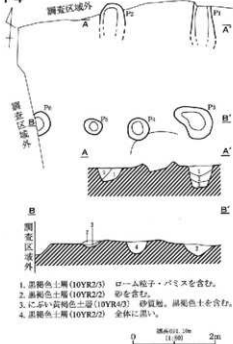
2. 掘立柱建物址

今回の調査では6棟の掘立柱建物址を検出した。ただ全容を把握できたものはF2号とF5号のみであった。また、F1号やF6号は形態より不確定要素も大きく棚列の可能性も否定できない。出土遺物としてはF3号のP3より弥生人面付土器の後頭部と考えられる破片が出土している。

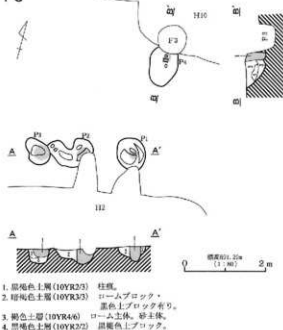
F5



F4



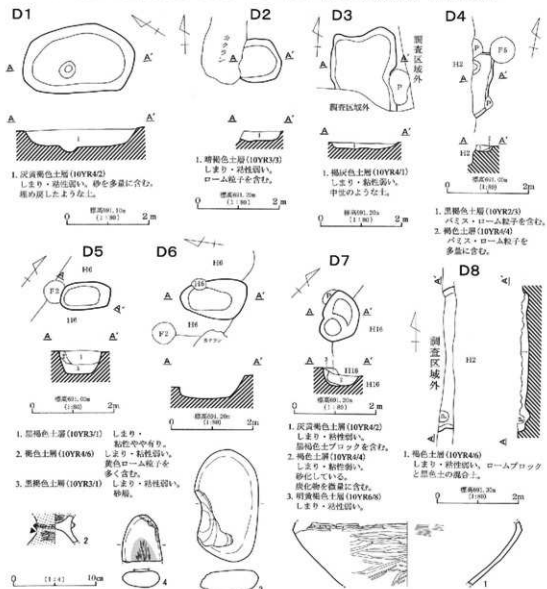
F6



第25図 掘立柱建物址実測図

3. 土坑

土坑は8基検出された。出土遺物は図示したものの他にD3号土坑より古墳時代の土師器甕片、D4号土坑より弥生土器片、D8号土坑より古墳時代土師器甕片と弥生時代土器片がそれぞれ出土している。土坑の特徴から性格を決定できるものはなかった。形態・規模は計測一覧表を参照。



第26図 土坑及び出土遺物実測図

4. 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構

本址は調査区北東角のカー3Grに位置する。遺構のほとんどが調査区域外となるが形態より、北側のⅢ・Ⅳ・Ⅵ次調査のみに発見されている「環濠」の一部と考えられる。検出部の深さは94cmで

あった。出土遺物は図示した1, 3, 4があり、覆土上層からは3の土師器坏や、4の古墳時代中期の土師器高坏脚部が出土した。

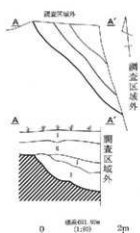
(2) M2号溝状遺構

本址は調査区南端のコー8Grに位置する。H3号住居に切られるが北方向に屈曲すると考えられる。深さは10~20cmであった。出土遺物は図示した弥生中期壺胴部破片があった。

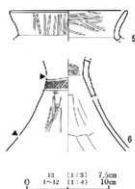
(3) M3号溝状遺構

本址は調査区南端のコー4.5・ケー5Grに位置する。H2号とH5号住居に切られるが西方向に屈曲すると考えられる。深さは6~17cmであった。出土遺物は弥生土器片7点があったのみである。

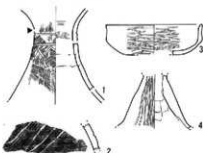
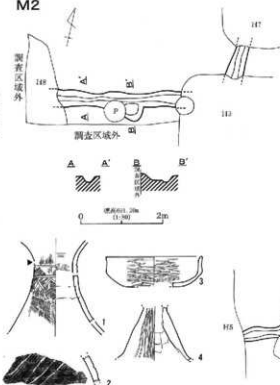
M1



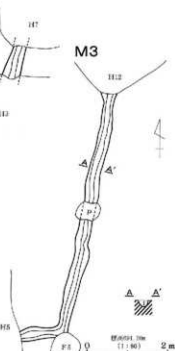
- I. 褐色土層(10YR6/1)
砂質土、しまり・粘性弱い。
 - II. 暗褐色土層(10YR3/3)
しまりやや有り。粘性弱い。
砂を含む。
1. 黒色土層(10YR2/1)
しまり・粘性やや有り。
思いが強く、小石を含む。
 2. 暗褐色土層(10YR3/4)
しまり・粘性やや有り。
ローム土・黒色土の混合土。



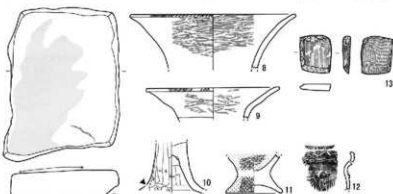
M2



M3



1. 黒褐色土層(10YR3/2)
しまり・粘性弱い。
黄色ロームブロック主体。



第27図 溝状遺構及び単独ピット・遺構外出土遺物実測図

第2表 掘立柱建物址一覽表

(残存) (推定)

遺構名	検出位置	形態	壁数(面)	桁行長(m)	梁行長(m)	面積(m ²)	方位	桁行柱間寸法(m)		梁行柱間寸法(m)		柱(長×幅×深)cm			
								P1~P2	P2~P3	P1~P2	P2~P3	①	②	③	
F1	ケ-6 ケ-6 コ-8	?	4	7.45	-	-	-	P1~P2	1.71	-	-	①	106×92×55	③	70×53×50
								P2~P3	1.72			②	78×22	④	43×40×39
								P3~P4	1.91			⑦	70×49×31	⑤	60×55×38
								P4~P5	2.11						
F2	ケ-6-7 コ-6-7	長方形	2×3	3.96 P1~P4 3.92 1'6~1'9	3.27 P1~P9 3.24 P4~P6	12.8	N-86°-E	P1~P2	1.30	P1~P10 1.75 P10~P9 1.52 P4~P5 1.82 P5~P6 1.42	①	54×54×(60)	③	56×53×65	
								P2~P3	1.23		②	58×55×60	④	60×60×77	
								P3~P4	1.43		③	50×50×(55)	⑤	60×58×68	
								P6~P7	1.40		④	67×56×(63)	⑥	60×55×30	
								P7~P8	1.28		⑤	60×58×31	⑦	60×57×55	
								P8~P9	1.24						
F3	ケ-3-4 コ-3-4	?	1×3	5.00 1'2~1'5	1'1~1'2 1.56 P6~1'5	-	-	P2~P3	1.57	P1~P2 1.56 P6~1'5 1.56	①	74×44×77	③	80×73×66	
								P3~P4	1.33		②	74×66×73	④	67×65×76	
								P4~P5	1.90		③	73×70×66	⑤	80×38×68	
F4	コ-2-3 サ-2-3	?	1×3	3.95 P3~P6 2.02 1'1~1'2	2.48 1'1~1'3 1.56	-	-	P3~P4	1.48	P1~P3 2.40	①	75×56×64	③	54×53×37	
								P4~P5	1.07		②	62×54×35	④	46×38×16	
								P5~P6	1.40		③	102×76×26	⑤	(60×50)×33	
								P1~P2	2.02						
F5	ケ-5 ケ-4-5 コ-4	長方形	1×3	4.70 P1~P4 2.95 1'7~1'5	2.97 P1~P7 2.97	(14.3)	N-75°-E	P1~P2	1.62	P1~P7 2.97	①	60×56×49	③	68×62×(35)	
								P2~P3	1.22		②	67×57×(50)	④	70×57×(38)	
								P3~P4	1.86		③	57×50×(56)	⑤	82×70×46	
								P5~P6	1.51						
								P6~P7	1.44						
F6	コ-4-5 サ-5	-	1×1	2.30 P1~P3	(2.36) P1~P4	-	-	P1~P2	1.24	P1~P4 (2.36)	①	84×68×44	③	74×53×39	
								P2~P3	1.06		②	115×70×43車 ×40×25西			

第3表 土坑計測表

遺構名	グリット	形態	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	長軸方位	重複関係	土坑内ピット(長・深)	備考
D1	コ-3-4	楕円形	270	165	45	N-31°-W		43-12	骨あり
D2	ケ-8	?	(100)	105	27	N-90°-E	西、カクラン		
D3	ケ-ケ-9	不整形	(194)	160	22	N	単P8に切られる		
D4	ケ-5-6	不整形	(160)	(50)	22		単P1-85-H2-P3に切られる	(40)-11	
D5	コ-7	楕円形	120	67	70	N-47°-E	P2-H6に切られる		
D6	コ-7-8	楕円形	162	93	41	N-5°-W	P2-H6に切られる		
D7	ケ-4-5	不整形	120	90	56	N-26°-W	単P1-H6に切られる		テラ246cm
D8	サ-5-6	—	(347)	—	17	—	単P9-H2に切られる		

第4表 H14号住居址出土黒曜石一覽表

平面図番号	石材	重量	種類	備考	平面図番号	石材	重量	種類	備考
No15	黒曜石	7.24	石核	自然面あり	No44	黒曜石	0.75	剥片	
No16	黒曜石	6.56	石核	自然面あり	No45	黒曜石	1.14	剥片	自然面あり
No19	黒曜石	2.6	原石	押圧痕跡あり	No46	黒曜石	3.76	石核	
No20	黒曜石	0.48	剥片		No48	黒曜石	1.67	剥片	
No21	黒曜石	2.91	原石		No49	黒曜石	0.96	石核未製品	
No22	黒曜石	3.09	石核	自然面あり	No50	黒曜石	1.87	石核	風化面有り
No23	黒曜石	3.07	黒曜石器未製品		No51	黒曜石	1.36	石核未製品	
No24	黒曜石	1.51	剥片		No52	黒曜石	1.56	石核未製品	風化面有り(2009-19)
No25	黒曜石	9.31	石核	自然面有り	No53	黒曜石	2.45	黒曜石器未製品	
No27	黒曜石	1.47	黒曜石器未製品	(2009-18)	No54	黒曜石	3.45	石核	
No28	黒曜石	5.5	石核	自然面有り	No55	黒曜石	0.98	石核未製品	(2009-20)
No29	黒曜石	1.24	剥片		No56	黒曜石	1.97	剥片	自然面あり
No30	黒曜石	2.05	石核	風化面有り	I K①	黒曜石	5.55	原石	
No31	黒曜石	0.31	石核未製品	欠損 (2009-20)	I K②	黒曜石	5.11	原石	
No32	黒曜石	0.72	剥片	自然面有り	I K③	黒曜石	1.87	石核	
No33	黒曜石	1.87	剥片	自然面有り	I K④	黒曜石	8.28	原石	
No34	黒曜石	1.97	石核	風化面有り	I K⑤	黒曜石	3.78	石核	自然面あり
No35	黒曜石	2.5	石核	風化面有り	I K⑥	黒曜石	3.93	石核	
No36	黒曜石	3.2	黒曜石器未製品		I K⑦	黒曜石	4.75	原石	
No37	黒曜石	2.02	石核未製品	風化面有り	I K⑧	黒曜石	2.43	原石	
No38	黒曜石	4.53	石核	自然面有り	I K⑨	黒曜石	2.03	剥片	自然面あり
No39	黒曜石	3.43	石核	風化面有り	—①②	黒曜石	0.01	剥片	
No40	黒曜石	3.36	石核	自然面あり	—③	黒曜石	0.47	剥片	
No41	黒曜石	1.31	黒曜石器未製品		—④	黒曜石	0.01	剥片	
No42	黒曜石	9.3	石核	自然面あり	—⑤	黒曜石	0.09	剥片	
No43	黒曜石	1.72	石核未製品						黒曜石の重量合計143.87

No26	砂岩	25.53	原石	3箇所(別項)の層状の剥痕 (2009-22)	統合関係 No16+22+25+28+32+53+ I K⑥ No31+55
No47	砂岩	42.64	原石	側面と正面3箇所(別項)に類かな削き痕 (2009-21)	

平面図番号と写真図表番号は一致する。

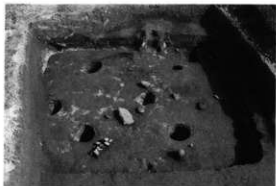
第5表 ビット計測表

演算名	出元位置	最終×短接×減否	形態	演 算 士	出元演算	乗算関係
P1	ユー3	52×32×33	閉形	甲副値上(10Y R3/1)	常生、土浦直樹	
P2	ユー3	58×55×49	閉形	常生	常生、土浦直樹	
P3	ユー3	58×51×29	閉形	常生	常生、土浦直樹	
P4	ユー3	78×67×28	閉形	常生	常生、土浦直樹	P93を切る。
P5	ユー7	78×68×26	閉形	常生	常生、土浦直樹	H7を切る。
P7	ユー7	72×61×27	閉形	常生	常生、土浦直樹	H7を切る。
P8	ユー7	91×53×27	不整形	常生	常生、土浦直樹	H3を切る。
P9	ユー7	64×61×27	閉形	常生	常生、土浦直樹	H7を切る。
P10	ユー7	49×40×19	閉形	常生	常生、土浦直樹	
P11	ユー8	53×40×17	閉形	常生	常生、土浦直樹	H3を切る。
P12	ユー9	51×50×48	閉形	常生	常生、土浦直樹	H3を切る。
P18	ユー9	25×34×10	閉形	甲副値下(10Y R3/1)	常生	H3を切る。
P19	ユー9	47×41×35	閉形	常生	常生	H3を切る。
P20	ユー4	72×61×37	閉形	常生	常生	H16、107を切る。
P21	ユー4	49×42×22	閉形	常生	常生	H16を切る。
P22	ユー4	67×62×32	閉形	常生	常生	
P23	ユー4	83×56×31	閉形	常生	常生	H17を切る。
P24	ユー5	62×58×21	閉形	常生	常生	
P25	ユー5	50×53×22	閉形	常生	常生	
P26	ユー5	70×58×51	閉形	常生	常生	H15を切る。
P27	ユー4	81×48×49	不整形	常生	常生	H14を切る。
P28	ユー4	38×44×35	閉形	常生	常生	H14を切る。
P29	ユー5	58×40×17	閉形	常生	常生	H14を切る。
P30	ユー5	82×65×51	閉形	常生	常生	H14を切る。
P31	カキキ	80×53×20	閉形	常生	常生	
P32	ユー3	53×32×14	閉形	常生	常生	H17を切る。
P33	ユー3	38×34×14	閉形	常生	常生	
P34	ユー4	30×28×19	閉形	常生	常生	
P35	ユー4	32×32×20	閉形	常生	常生	F3のP1に切られる、H10を切る。
P36	ユー5	38×33×14	閉形	常生	常生	
P37	ユー5	62×53×21	閉形	常生	常生	H2に切られる。
P38	ユー4	49×40×18	閉形	常生	常生	
P39	ユー4	140×40×13	閉形	常生	常生	
P40	ユー5	42×34×23	閉形	常生	常生	
P41	ユー5	55×32×38	閉形	常生	常生	
P42	ユー5	47×33×25	閉形	常生	常生	
P43	ユー4	54×34×37	閉形	常生	常生	F60を切る。
P44	ユー4	43×38×22	閉形	常生	常生	F60を切る。
P45	ユー4	31×29×16	閉形	常生	常生	
P46	ユー4	32×32×22	閉形	常生	常生	
P47	ユー3	41×33×11	閉形	常生	常生	
P48	ユー4	60×53×16	閉形	常生	常生	H2のP1に切られる、H3を切る。
P49	ユー5	35×39×13	閉形	常生	常生	
P50	ユー5	45×44×8	閉形	常生	常生	
P51	ユー6	36×31×14	閉形	常生	常生	H4を切る。
P52	ユー6	44×37×14	閉形	常生	常生	
P53	ユー6	41×32×18	閉形	常生	常生	
P54	ユー6	73×33×28	閉形	常生	常生	H2に切られる。
P55	ユー6	67×46×28	閉形	常生	常生	
P56	ユー6	59×43×12	閉形	常生	常生	
P57	ユー6	37×52×26	閉形	常生	常生	H7を切る。
P58	ユー6	74×52×27	閉形	常生	常生	H7を切る。
P59	ユー3	60×55×38	閉形	常生	常生	H5を切る。
P59	ユー4	140×40×13	閉形	常生	常生	
P61	ユー4	65×55×18	閉形	常生	常生	F43、F44に切られる。
P62	ユー4	64×55×37	閉形	常生	常生	H14を切る。
P63	ユー5	44×34×44	閉形	常生	常生	H15を切る。
P64	ユー5	52×43×44	閉形	常生	常生	H15を切る。
P65	ユー5	350×40×46	閉形	常生	常生	H5を切って、H2に切られる。
P66	ユー4	735×32×28	閉形	常生	常生	H13に切られる。
P67	カキキ	42×35×16	閉形	常生	常生	
P68	ユー5	43×37×16	閉形	常生	常生	
P69	ユー5	47×13×40	閉形	常生	常生	
P70	ユー5	32×149×12	閉形	常生	常生	
P71	ユー5	163×58×44	閉形	常生	常生	H2に切られる。
P72	ユー4	48×34×44	閉形	常生	常生	
P73	ユー4	38×32×32	閉形	常生	常生	
P74	ユー5	55×130×33	閉形	常生	常生	
P75	ユー4	30×29×26	閉形	常生	常生	
P76	ユー4	28×28×25	閉形	常生	常生	H14を切る。
P77	ユー4	20×19×25	閉形	常生	常生	H14を切る。
P78	ユー4	18×18×28	閉形	常生	常生	H14を切る。
P79	ユー2	2×2×34	閉形	常生	常生	
P80	ユー3	49×38×31	閉形	常生	常生	
P81	ユー3	2×83×22	閉形	常生	常生	H5に切られる。
P82	ユー5	72×2×21	閉形	常生	常生	H5に切られる。
P83	ユー5	71×61×30	閉形	常生	常生	H5に切られる。
P84	ユー6	2×2×27	閉形	常生	常生	H5に切られる。
P85	ユー5	60×58×26	閉形	常生	常生	
P86	ユー6	37×34×18	閉形	常生	常生	H2に切られ、H4、H13を切る。
P87	ユー6	34×30×25	閉形	常生	常生	H25に切られる。
P88	ユー7	49×44×11	閉形	常生	常生	
P89	ユー4	31×29×16	閉形	常生	常生	
P90	ユー5	36×2×25	閉形	常生	常生	
P91	ユー5	2×22×29	閉形	常生	常生	H2に切られ、H8を切る。
P92	ユー5	32×2×14	閉形	常生	常生	H2に切られ、H11を切る。
P93	ユー8	80×51×34	閉形	常生	常生	H2に切られ、H11を切る、F4を切る、H7を切る。
P94	ユー7	32×50×26	閉形	常生	常生	H7を切る。
P95	ユー7	54×49×27	閉形	常生	常生	H7を切る。

No.	排水処理施設	法		外		内		備		出水位置
		人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	
1	1号浄水場	13.6	4.3	4.3	4.3	0	0	0	0	1号
2	2号浄水場	13.2	12.0	4.2	4.2	0	0	0	0	1号
3	3号浄水場	13.6	4.6	4.6	4.6	0	0	0	0	1号
4	4号浄水場	12.8	4.3	4.3	4.3	0	0	0	0	1号
5	5号浄水場	13.6	4.2	4.2	4.2	0	0	0	0	1号
6	6号浄水場	12.7	4.4	4.4	4.4	0	0	0	0	1号
7	7号浄水場	9.6	3.4	3.4	3.4	0	0	0	0	1号
8	8号浄水場	20.2	13.7	13.7	13.7	0	0	0	0	1号
9	9号浄水場	21.1	11.5	11.5	11.5	0	0	0	0	1号
10	10号浄水場	22.3	12.8	12.8	12.8	0	0	0	0	1号
11	11号浄水場	13.6	12.4	12.4	12.4	0	0	0	0	1号
12	12号浄水場	11.6	10.7	10.7	10.7	0	0	0	0	1号
13	13号浄水場	24.2	6.5	6.5	6.5	0	0	0	0	1号
14	14号浄水場	9.6	13.2	13.2	13.2	0	0	0	0	1号
15	15号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号
16	16号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号
17	17号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号

No.	排水処理施設	法		外		内		備		出水位置
		人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	
1	1号浄水場	13.6	4.3	4.3	4.3	0	0	0	0	1号
2	2号浄水場	13.2	12.0	4.2	4.2	0	0	0	0	1号
3	3号浄水場	13.6	4.6	4.6	4.6	0	0	0	0	1号
4	4号浄水場	12.8	4.3	4.3	4.3	0	0	0	0	1号
5	5号浄水場	13.6	4.2	4.2	4.2	0	0	0	0	1号
6	6号浄水場	12.7	4.4	4.4	4.4	0	0	0	0	1号
7	7号浄水場	9.6	3.4	3.4	3.4	0	0	0	0	1号
8	8号浄水場	20.2	13.7	13.7	13.7	0	0	0	0	1号
9	9号浄水場	21.1	11.5	11.5	11.5	0	0	0	0	1号
10	10号浄水場	22.3	12.8	12.8	12.8	0	0	0	0	1号
11	11号浄水場	13.6	12.4	12.4	12.4	0	0	0	0	1号
12	12号浄水場	11.6	10.7	10.7	10.7	0	0	0	0	1号
13	13号浄水場	24.2	6.5	6.5	6.5	0	0	0	0	1号
14	14号浄水場	9.6	13.2	13.2	13.2	0	0	0	0	1号
15	15号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号
16	16号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号
17	17号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号

No.	排水処理施設	法		外		内		備		出水位置
		人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	人口(人)	処理(トン/日)	
1	1号浄水場	13.6	4.3	4.3	4.3	0	0	0	0	1号
2	2号浄水場	13.2	12.0	4.2	4.2	0	0	0	0	1号
3	3号浄水場	13.6	4.6	4.6	4.6	0	0	0	0	1号
4	4号浄水場	12.8	4.3	4.3	4.3	0	0	0	0	1号
5	5号浄水場	13.6	4.2	4.2	4.2	0	0	0	0	1号
6	6号浄水場	12.7	4.4	4.4	4.4	0	0	0	0	1号
7	7号浄水場	9.6	3.4	3.4	3.4	0	0	0	0	1号
8	8号浄水場	20.2	13.7	13.7	13.7	0	0	0	0	1号
9	9号浄水場	21.1	11.5	11.5	11.5	0	0	0	0	1号
10	10号浄水場	22.3	12.8	12.8	12.8	0	0	0	0	1号
11	11号浄水場	13.6	12.4	12.4	12.4	0	0	0	0	1号
12	12号浄水場	11.6	10.7	10.7	10.7	0	0	0	0	1号
13	13号浄水場	24.2	6.5	6.5	6.5	0	0	0	0	1号
14	14号浄水場	9.6	13.2	13.2	13.2	0	0	0	0	1号
15	15号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号
16	16号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号
17	17号浄水場	16.3	3.0	3.0	3.0	0	0	0	0	1号



H 1 号住居址全景



H 1 号住居址カマド全景



H 2 号住居址全景



H 2 号住居址カマド全景



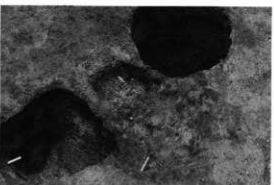
H 2 号住居址カマド掘り方全景



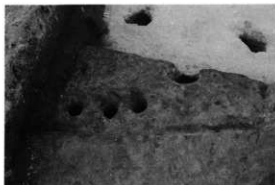
H 2 号住居址遺物出土状況



H 3 号住居址全景



H 3 号住居址炉全景



H 4 号住居址全景



H 4 号住居址遗物出土状况



H 5 号住居址全景



H 5 号住居址炉全景



H 5 号住居址遗物出土状况



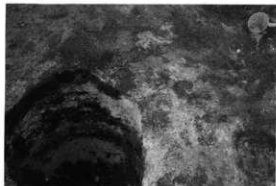
H 5 号住居址遗物出土状况



H 6 号住居址全景



H 6 号住居址№1 炉全景



H 6 号住居址№2 炉全景



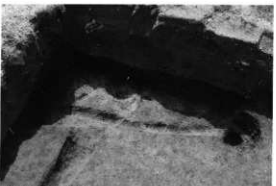
H 7 住居址全景



H 7 号住居址炉全景



H 7 号住居址埋設土器



H 8 号住居址全景



H 9 号住居址全景



H10 号住居址全景



H11 号住居址全景



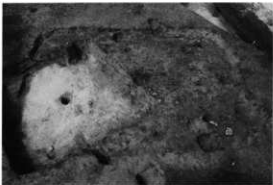
H12号住居址全景



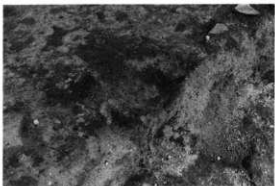
H13号住居址全景



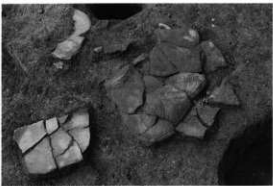
H13号住居址カマド全景



H14号住居址全景



H14号住居址炉全景



H14号住居址黒曜石出土状況①



H14号住居址黒曜石出土状況②



H14号住居址黒曜石出土状況③



H15号住居址全景



H15号住居址炉全景



H16号住居址全景



H16号住居址炉全景



H16号住居址遗物出土状况



H16号住居址遗物出土状况



H17号住居址全景



H17号住居址炉全景



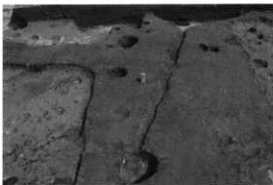
H18号住居址全景



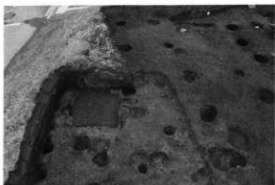
M1号沟状遗構全景



M2号沟状遺構全景



M3号沟状遺構全景



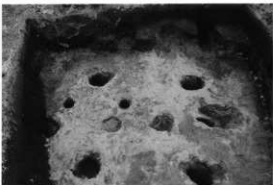
F1号掘立柱建物址全景



F2号掘立柱建物址全景



F3号掘立柱建物址全景



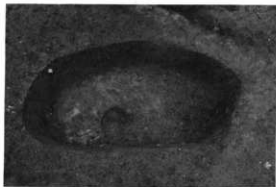
F4号掘立柱建物址全景



F 5号掘立柱建物址全景



F 6号掘立柱建物址全景



D 1号土坑



D 2号土坑



D 3号土坑



D 4号土坑



D 5号土坑



D 6号土坑



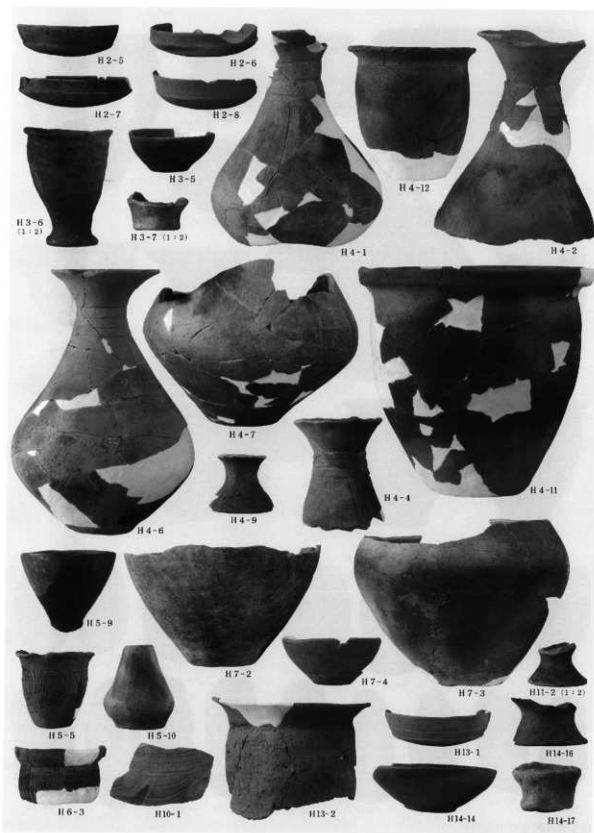
D7号土坑

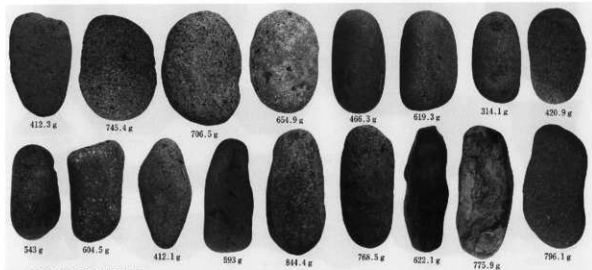
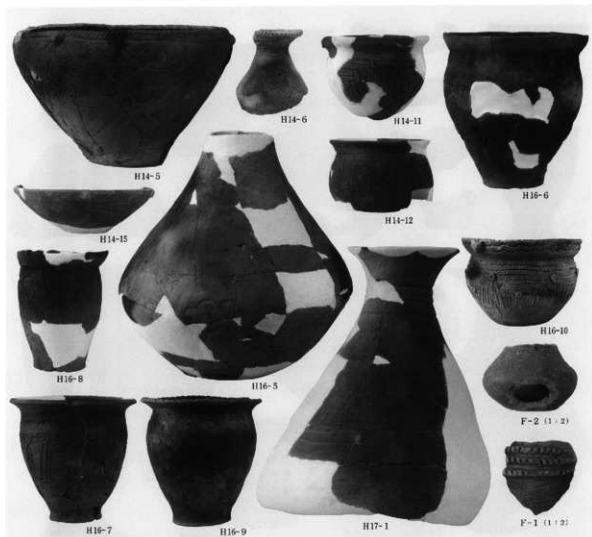


D8土坑

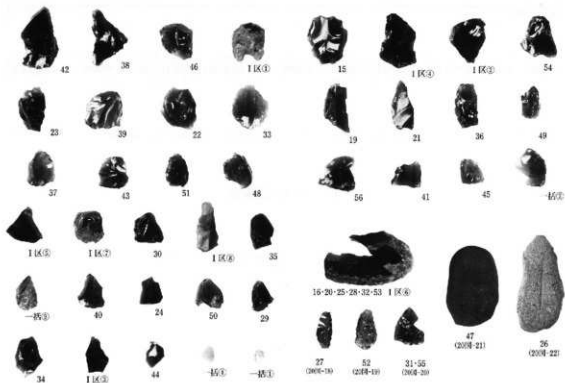
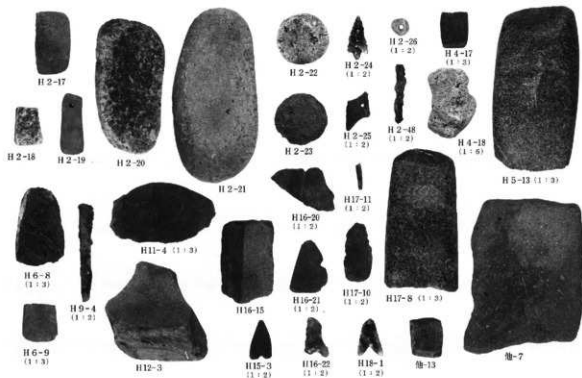


出土遺物





H1号住居址出土縄物石



H14-5 内の石器類 (1: 2)

() の数字は図版番号、その他の番号は第4巻の巻号

報告書抄録

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしっぼんやなぎいせきじゅうろく						
書名	岩村田遺跡群 西一本柳遺跡Ⅲ						
副書名	長野県佐久市岩村田 西一本柳遺跡 第16次調査						
巻次							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第160集						
編著者名	富沢 一明						
編集機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課						
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953						
発行年月日	平成20年(2008)12月17日						
ふりがな	ふりがな	コード	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		
西一本柳遺跡Ⅲ	佐久市岩村田 2338-4		52	36° 15' 54	138° 28' 01	2008.4.3~ 2009.3.10	385㎡ ウェディング 会場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
西一本柳遺跡Ⅲ	集落址	弥生時代 (中期)	竪穴住居址 土坑	11軒	弥生上器 (栗林式)	壺に貯蔵された黒曜石 群が出土	
		弥生時代 (後期)	竪穴住居址 溝状遺構	1軒	弥生土器 (箱清水式)	北から延びる「環濠」 の一部が検出された	
		古墳時代 (後期)	竪穴住居址 土坑	6軒	土師器・須恵器 1基 鉄製品		
	古代	溝状遺構	1本	土師器			
		土坑	2基	須恵器			
		ピット					
要 約							
今回の調査地点は国道141号の道脇であり、国道建設時の発掘調査で検出された集落址の広がり確認された。時代は弥生時代中期・後期と古墳時代後期の住居址群で、一部北から延びる弥生後期の「環濠」の一部も検出された。出土遺物としては長野県内で3例目となる黒曜石が貯蔵された弥生栗林期の壺が出土した事と、佐久地域では初例となる東北部の「川原町I式」の土器片が出土したことである。この資料は弥生中期における中部高地と東北部の上層平行関係を検証する上で貴重な資料である。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第160集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡Ⅲ

2008年12月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所